

日経平均の動き

私はこれまで相場の大きな流れを的確にとらえようと、さまざまに日経平均の分析を行ってきました。そして「データによる分析で勝率を上げるため」様々なデータを作成してきました。以下はそのデータを使い、これからの日経平均の動きを私なりに分析しコメントしています。皆様のご参考になれば光栄です。

▶ 来週の日経平均予想

5月SQ2週間後の値は20,388.16円でした。ピーク to ピークでのデータでは「5月SQ2週間後の値は、5月SQ1週間後の値(20,037.47円)よりも安くなる」でしたので、今回はデータが外れました。

直近10週間の週単位でのピークtoピークの検証結果						
3月13日	17,052.89(SQ)	高くなる	3月19日	16,552.83(終値)	×	0.971
3月19日	16,552.83(終値)	高くなる	3月27日	19,389.43(終値)	○	0.971
3月27日	19,389.43(終値)	高くなる	4月3日	17,820.19(終値)	×	0.919
4月3日	17,820.19(終値)	高くなる	4月10日	19,577.48(SQ)	○	1.099
4月10日	19,577.48(SQ)	安くなる	4月17日	19,897.26(終値)	×	1.016
4月17日	19,897.26(終値)	高くなる	4月24日	19,262(終値)	×	0.968
4月24日	19,262(終値)	高くなる	5月1日	19,619.35(終値)	○	1.019
5月1日	19,619.35(終値)	高くなる	5月8日	20,073.69(SQ)	○	1.023
5月8日	20,073.69(SQ)	安くなる	5月15日	20,037.47(終値)	○	0.998
5月15日	20,037.47(終値)	安くなる	5月22日	20,388.16(終値)	×	1.018
5月22日	20,388.16(終値)	高くなる	5月29日	?		

(独自作成)

次に来週の検証を行います。

5月SQ2週間後の値とSQ3週間後の値を比較すると、SQ3週間後の値のほうが高かったパターンは25回中13回あります(①)。

また今回のように、5月SQ1週間後の終値より2週間後の値のほうが高かったパターンは10回あります。そのうち6回は次の1週間後のほうが高くなっています(②)。

したがって、①、②より「5月SQ3週間後の値は、5月SQ2週間後の値(20,388.16円)よりも高くなる」というのがピーク to ピークでの検証結果です。

▶ 外国人の売買動向(資料:外国人の売買代金、信用残の推移)

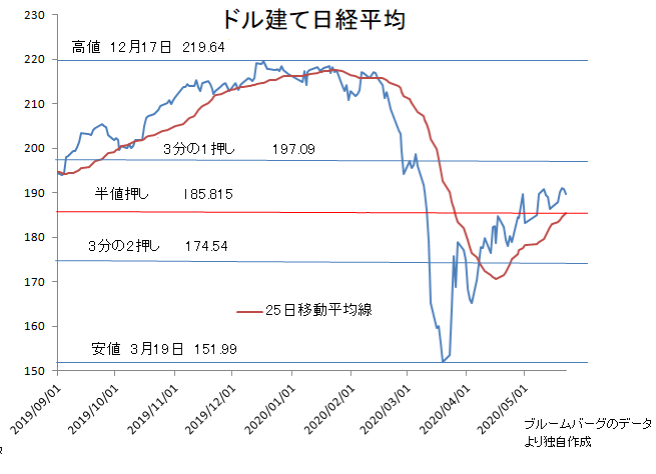
5月第2週の外国人は1296億円の売り越しとなりました。これで5週連続の売り越し、先物も7週連続の売り越しになっています。

外国人が売り越しているにもかかわらず、ドル建て日経平均は上昇トレンドです。先週末に一時半値押し水準まで下落していましたが、今週は再度上昇してきました。現時点では3分の1押し(3分の2戻し)の水準である197ドル台を目指していると考えられます。1ドル=107円として21,079円です。

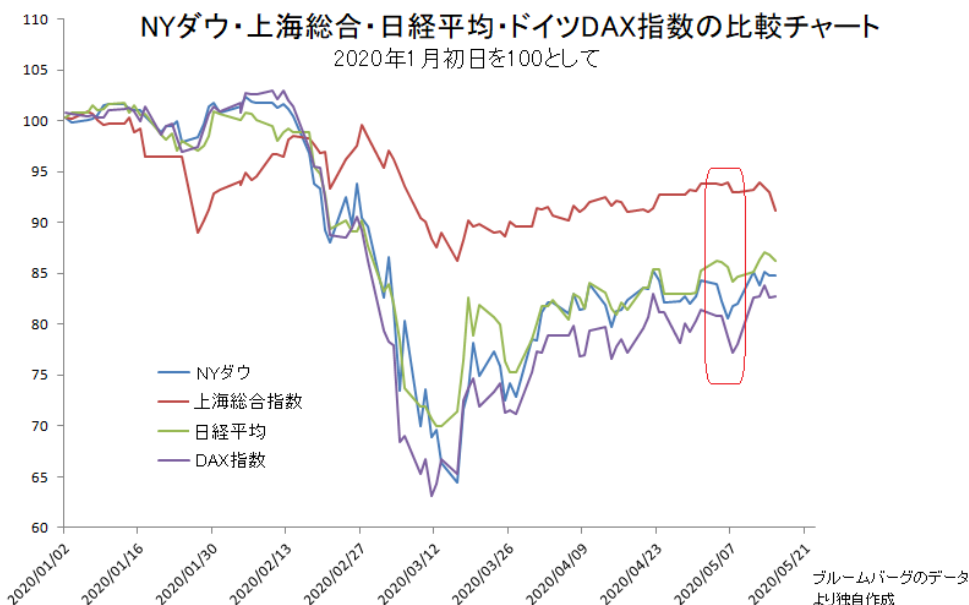


ニュース証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第138号
 〒150-0011 東京都渋谷区東三丁目11番10号 恵比寿ビル
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問協会



次にドル円です。先週「25日移動平均線が下向きなのでまだ円高トレンドが続いています」と書きましたが、徐々に下向きも緩くなってきました。しかも現在移動平均線の上にありますので、円安に方向転換する可能性も出てきました。



日経平均も含め、先週「調整局面に入ってきた可能性が高い」と書きました（赤枠部分）が、今週は各市場とも再度上昇しました。ただ中国上海指数は下落しています。来週は上海総合指数がどう動くかがポイントになると考えます。

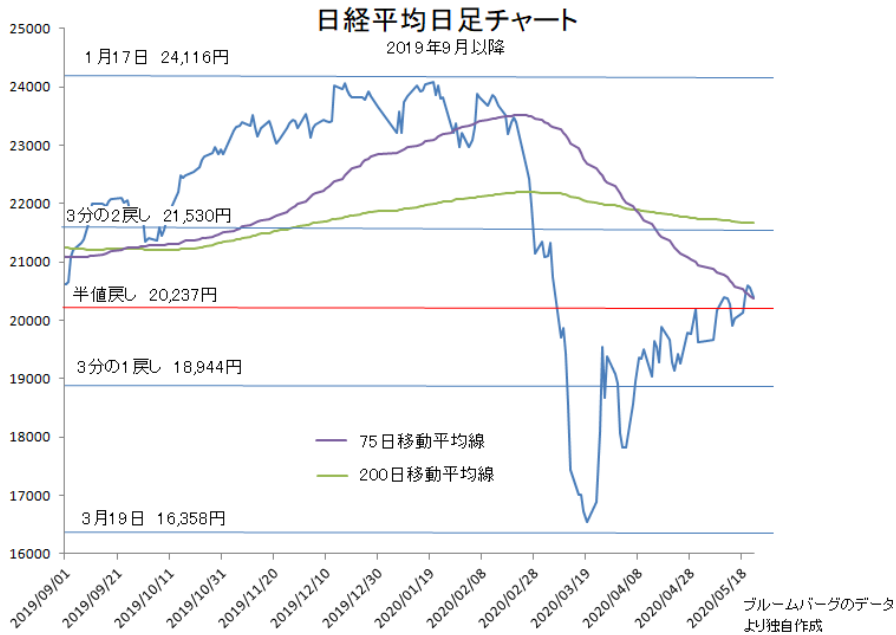
▶ チャート分析

今週の日経平均は 350 円高となりました。しかも一時、先週の戻り高値を上回ってきました。週末は反落で終わっていますが、シカゴ日経先物が 20,500 円台で終了していますので、週明けは上昇してスタートしそうです。



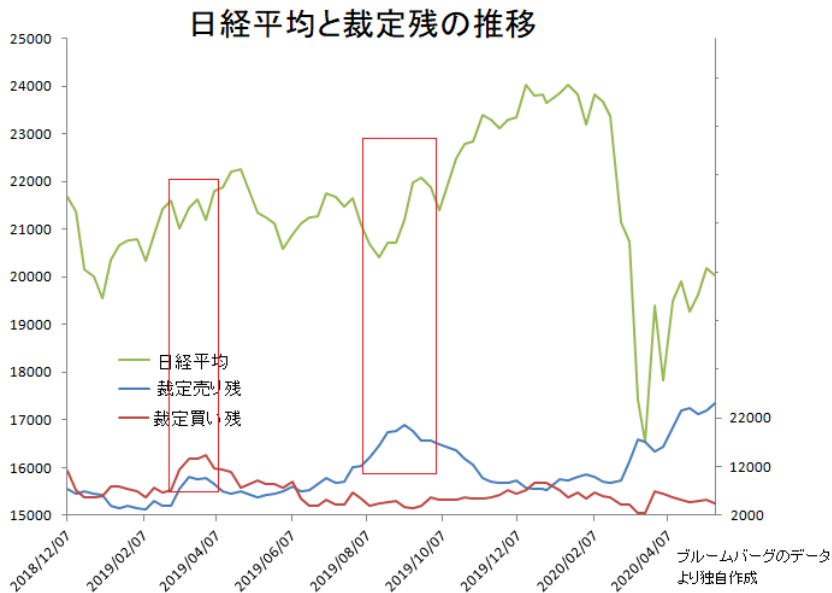
ニュース証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第138号
 〒150-0011 東京都渋谷区東三丁目11番10号 恵比寿ビル
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問協会



なお日経平均はコロナショック以降初めて 75 日移動平均線を上回ってきました。先ほどドル建て日経平均で、今回の下落の 3 分の 1 押し（3 分の 2 戻し）水準が次の戻りのめどだと書きましたが、円建てでも半値戻しを達成しましたので、次は 3 分の 2 戻し水準を目指す動きになると思われます（あくまでもチャートを見ると、という条件です）。

今回の上昇がまだ続くと考えている人たち（あえて私はそう思っていません）の根拠の一つが、裁定売り残の積み上がりと思われます。



現在裁定売り残は 2 兆 4900 億と、直近では最高に膨らんでいます。そして 2018 年 12 月以降で、裁定売り残がピークを打った後は確かに日経平均が上昇しています。だから今回も裁定解消の場面になると、さらに上昇ということを考えている投資家が多いのでしょう。ただ今回



ニュース証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 138 号
〒150-0011 東京都渋谷区東三丁目 11 番 10 号 恵比寿ビル
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問協会

は上昇の過程で裁定売り残が増加していますので、果たしてこれまでのような売り残減少＝株高となるのかどうか。

一方、私はもう一度下落すると考えています。それは後で述べるように、中央銀行が対策を打っても、それは一時的には効くかもしれませんが、いつまでも続かないと思っているからですし、また景気の循環はあって当然、好景気の後には不景気 comes。その下げ切ったところから新たな芽が出て、次のサイクルが始まる、それが物の道理だと思っているからです。

景気が悪くなれば、人間はまた考え、新しい発想で成長してく。これが進化というものではないか、つまり逆境が成長につながるのではないかというのが私の考えです。

最後に、先ほど見てもらったように、世界のマーケットは米国を中心に戻り局面となっていますので、米国の動き次第ということも言えます。その米国は **FRB** が、コロナの影響をできるだけ回避するためマーケットに資金を注入してきました。それによってこれまではリスクの高い融資には慎重だったが、今回はそういったところにも買い入れを行っています。そのことが好感されて上昇しています。ただパウエル議長は「この措置は一時的な対応」と強調しています。そろそろ通常モードに戻すようなコメントが出始めたら、今回の戻りもいったん終了するのではないかと考えます。来週以降はこのあたりのコメントなどにも気を付けておきたいものです。

注意事項

- ・この資料の作成にあたっては細心の注意をしておりますが、作業上データに誤りが発生する可能性があり、正確性を保証するものではありません。またここでの内容は現時点での判断を示しているにすぎません。また予告なく見方を変更することもあります。
- ・この資料は情報提供のみを目的に作成したもので、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって投資の最終決定はご自身でなさるようお願いいたします。

N e w s 20200525-1



ニュース証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第138号
〒150-0011 東京都渋谷区東三丁目11番10号 恵比寿ビル
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問協会